

台東区区民憲章策定区民会議
第4回班別会議 2班 議事概要

日時：平成17年12月7日(水) 19:00~20:45

場所：台東区役所603会議室

1. 議論のテーマの選定～将来に残したいもの、実現したいもの～
 - ・ 第2回の班別会議でKJ法を用いて議論した“台東区のイメージ”は、振り返って考えてみると、現状の台東区のことだけを整理している感があり、将来や未来への展望という視点が欠けている。
 - ・ 区民憲章を考えていく上では、そういった現在の台東区のイメージ、よいところなどを残すためにはどうしたらよいか、あるいは台東区の未来図はどうあるべきなのかということについて整理できるとよいのではないかと。
 - ・ 本日の討議テーマとして開催案内に記載されていたもののうち、「守りたいもの」や「誇りたいもの」というものは既に整理されているので、「将来に向けて実現したいもの」「語り継ぎたいもの」を議論していったらどうか。
 - ・ 前は台東区のよいところに議論が集中し、マイナス面に目が向けられていないので、「将来に向けて残したいもの」を考えていく上で、マイナス面をプラスに変えていくような、前向きに捉えていくような言葉を憲章に盛り込んでいきたい。
 - ・ この班としては「将来に向けて残したいもの」という面を特に表現したいという意見が多いようであるので、まずこのテーマについてKJ法でまとめていきたい。
2. KJ法による整理
 - ・ 将来に残したいもの、実現したいものといったテーマで各メンバーから意見を募り、KJ法を用いて、整理を行った。
 - ・ その結果、下記の通り、大きく2つのストーリーが描かれた。詳細については別紙参照。

整理された「将来に残したいもの」のストーリー

台東区には職人の技などの言葉に代表されるような「生業」が育まれてきた こうした職業から「心意気」というものが生まれ こうした心意気を持った人々により、支えあいやおせっかいといった独特な「まち」が形成された こうしたまちでの「暮らしやすさ」を将来に向けて残していきたい。

独特な「まち」から「祭・イベント」が生まれ、継続されてきた そのことにより「伝統文化」が育まれてきた。また、職人技などを生んできた「生業」も「伝統文化」につながっている、さらに「豊かな自然」も台東区では人の手によって生まれ、守られてきた自然が多く、こうした自然・景色も台東区の「伝統文化」といえる。こうした自らによって育んできた「伝統文化」を未来に向けて残していきたい。

3. 将来に向けて残したいものをどうやって残していくのか

- ・ KJ法によって得られた「将来に向けて残したいもの」を今度はどうやって残していくのかを議論しなければならない。
- ・ 例えば、「暮らしやすいまち」を残して行くにはどうしたらよいか、どういった言葉に託していったらよいのか。託すキーワードは何かを考えていくべきではないか。
- ・ 核家族化などにより、世代間の絆がなくなってきていることが、伝統文化の消失、暮らしにくい環境になってきている一つの要因ではないか。お節介がいなくなってしまった。
- ・ 「暮らしやすいまち」を残していくためには、家庭での「世代の縦のつながり」とPTAや町会を通した「地域の横のつながり」が必要なのではないか。町会という単位での交流に「伝統文化の継承」や「暮らしやすい環境」を実現する力があるのではないか。
- ・ 「自分を一步引いて、相手のことを考える」心がけが大切なのではないか。
- ・ 将来に残したいものとして整理されたものをみていると、目に見えないものは「安心」、目に見えるものは「安全」というキーワードに整理できるのではないか。
- ・ 近所のお互いの顔を知ることがまず、「暮らしやすいまち」「安心・安全」を産み出すきっかけなのではないか。
- ・ 仮に区民憲章が前文、本文に分かれる場合、前文はこれまで議論してきた「残したいもの」、つまり「何を」という部分が盛り込まれることが多い。一方、本文は短くて訴求力のある言葉が求められる。
- ・ これまで議論してきた「何を」をどういった言葉で多くの人に訴えかけていくかということも議論した方がよいのではないか。
- ・ キーワードを考えると、「何を」をどうしたいのかを考えた上で、言葉を選んでいかないと言葉遊びになってしまう。
- ・ キーワードを考えると、忘れていたものを思い出したり、言葉に出すことで明るい気持ちになるといった性格をもつ言葉が区民憲章にはふさわしいのではないか。

「将来に残したいもの」を端的に訴えていくキーワードの例

「おせっかいによるまちづくり」 「安心・安全」 「文化の上野、情緒の浅草」
「袖擦れ合う」 「自ら育む」 「先人の知恵」 「よってたかって」 「昔ながら」
町会単位などでの「縦のつながり、横のつながり」

4. その他（今後のスケジュール等）

- ・ 班別会議はこれで一区切りとなり、次回の会議は全体会議となる。日程は年明けになるので、別途調整させていただく。

以上